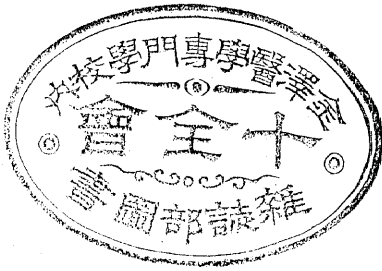


大正四年七月一日發行

十全會雜誌

卷十二第
號七第
(號四十百第)



全澤醫學專門學校十全會

十全會雜誌(第二十卷第七號) 目次

○原著及實驗

●肺「ガストマ」地方病學的及臨床的事項。

新竹醫院長 中川 幸庵

○雜報

●本校祝賀式。

○人事

●平田一若氏訃音。●轉居。

○會告

●校外特別會員會費納付調書。●創立二十五年紀念館寄附金第拾壹回報告。

○廣告

●佐々木教授在職紀念品贈呈醜金第二回報告。



セルガ故ニ河水ヲ飲料トナスコトハ勿論使用水ニモ用フベカラズ其他魚類野菜類モ生食スルヲ禁ズ河水ニ游泳スベカラズ之レ病毒ノ混在スルノ恐アルヲ以テナリ一般豫防トシテハ中間宿主タル蟹類ノ捕獲撲滅ヲ計ルニアリ尙ホ又第一中間宿主タル河貝子類ヲ全滅セシムル方法ヲ講ゼザルベカラズ

雜報

●本校祝賀式

本校創立二十五年記念及校舎改築移轉祝賀式は去五月十一日午前十時を期して舉行されたり校前に樹てられたる大綠門は千秋の翠を捧げて洋々たる前途を祝福する如く八方に張渡せる彩旗は晩春の花なき空に七寶の璽路を列れたるに似たりき生憎朝來の雨に期待されたる運動會其他の餘興は延期となりたるも招待を受けたる來賓は西より東より集ひて定刻迄に約四百五十名を算するの盛況を呈し何れも階下の控室にて談笑し近き將來に於て醫科大學の設置を實現せざるべからずと地方民の奮起と當局者の努力とを切望する間に第一號鐘は鏘々鳴渡り職員生徒一同階上なる大講堂へ入場し續いて第二號鐘の響く處來賓は山崎委員長の案内にて入場し設けの席に就くや程なく高安校長の先導に連れ文部省專門學務局長松浦鎮次郎氏は文部大臣代理として太田知事、溝淵四高校長等の一行と櫛を排して入場せり此時高安校長は恭しく壇上に進み正面の御眞影奉安所に向ひて敬禮し謹嚴の態度、莊重の音吐にて勅語を捧讀せるが滿堂の會衆肅然襟を正して崇高敬

虔の念に打たれざるなかりき次で委員長山崎幹氏は沿革史を朗讀し終つて文部省建築課長柴垣鼎太郎氏は明治四十三年六月に第一回工事を企て大正二年度に第二回の改築を終へたる來歴と建坪數及び之に要したる工事費十七萬餘圓と尙將來藥學科、附屬室、倉庫、動物室等の建築に二三年の月日を要すべしと報告し高安校長替つて登壇、左の如き式辭を朗讀せり

茲に本日を下して我金澤醫學專門學校創立二十五年記念及校舎改築移轉祝賀式を舉行するに際し文部大臣閣下を始めとし貴顯紳士並に我校出身諸君の貴臨を辱ふせるは洵に本校の光榮として又小官等の最も感謝する所なり願ふに本校の起源たる遠く慶應年間に在りき雖も其醫育機關の稍完備するに至りたる漸く明治二十年以降にして殊に明治卅四年四月本校の分離獨立し金澤醫學專門學校と改稱せられてより以來校運稍隆盛に赴き爾來校舎の狹隘を告ぐるに至りたるを以て明治四十三年四月現在の地を相して新築に着手し明治四十五年三月に至り工事竣成せるを以て直に移轉し尙ほ昨年解剖學教室を改築し以て今日に及べり而して尙ほ未濟の校舎は逐年増築の計畫なり然りと雖も宇内の大勢は固より現時の醫育機關を以て満足す可きにあらず況んや醫育統一の必要は夙に識者の間に唱道せらるゝ所にして我醫學專門學校の如きも亦自今益々内容及設備の改善を圖り以て世の進運に伴はんことを期せざる可からず是れ小官等の夙夜翹望する所也本式は大正二年に行ふ筈なりしも恰も諒闇の國計に遭遇せるを以て本日に延期せり蓋し本校の今日あるは實に來賓諸彦の御同情によることなれば尙ほ將來發展に關し一層御援助あらんことを希望す聊か蕪辭を陳して式辭とす

次で松浦局長は明晰なる句調にて左記文部大臣の祝辭を讀みたり

金澤醫學專門學校は明治二十年第四高等中學校醫學部として設置せられたるに初まり明治三十四年に至て獨立の醫學專門學校となり爾來校運年々俱に進み卒業生を出すこと既に二千名に垂んさし我醫界及藥業界に貢

賦する所頗る多大なるものあり今や校舎の改築其の工を竣り設備亦整頓を加へたるを機とし本校創立第二十五年記念の祝典を擧ぐ本大臣は本校が今日の盛運を致せるもの實に當事者諸君熱誠其の職に盡し經營其の宜しきを待たるの結果に外ならざるを思ひ深く諸君の勞を多とし本校の前途を祝福す

我國醫藥の學は軌近長足の進歩を爲せりと雖も猶ほ教を泰西諸國に仰ぐもの多し學界の事固より偏狹の見を許さず廣く智識を世界に求むるの要あるは論を待たずと雖も而も外國に對する依頼心を去り獨特の研鑽を進め以て我學術をして卓然宇内に獨立せしむるの基礎を確立するは斯界人士の宜しく大に勉むべき所現下の時局は殊に此の感を痛切ならしむるものあり冀くは本校當事者諸君此の趣旨を體し學術の講究に生徒の教養に自今一層其の力を効し以て斯學の進展に資せんことを本校の實習病院たる石川縣立病院は曩に同縣に於て巨資を投じて之が改築を爲せるあり其の他本校が直接間接に同縣に負ふ所少からざるを信ず本大臣は此の機會に於て感謝の意を表し併せて同縣理事者及縣民諸君が本校發達の爲め將來一層の援助を與へんことを望む

太田知事は堂々たる風姿を壇上に運びて一片の祝辭を致し飯森縣醫師會長、米村市醫師會長亦相踵いで祝辭を陳じ松原教授は九州帝國大學總長眞野文二、同大學醫科大學長伊藤祐彦、東京帝國大學醫科大學教授佐藤三吉、上田蠶糸専門學校長針塚長太郎、米澤高等工業學校長大竹多氣氏外數十氏より寄せたる祝電、祝辭を披露し最後に醫學科生徒總代春野重二、藥學科生徒總代岡島卯之介兩氏の祝辭あり之れにて式を閉ち來賓一同は校内なる標本陳列室を縱覽し各自衛生思想に資する處あり或ひは講堂に止まりて狂言入間川の滑稽なるに頌を解くもあり聽て第三號鐘を合圖に生徒控所に設備されたる食堂は開始せられ善盡し美盡せる室内にて立食の饗に接したるが高安校長は雨天に拘らず斯く多數の來會を辱ふしたるは感謝の至に堪へ

す設備萬端不行届なれども寛々歡を盡されんことをと挨拶を述へ西郷金澤地方裁判所長は來賓を代表して盛典に列するの光榮を謝し澁淵四高校長は兩陛下の高歳を、飭谷縣會議長は金澤醫學專門學校の高歳を三唱し會衆一齊之に和して屋宇を震撼せしめ散會したるは午後零時卅分頃にて來會者の重なる人々々前記の外浦井四高教頭、寺島檢事正、小河憲兵隊長、新井參謀を始め各官衙の長官、陸軍各部隊長、四高校各教授、開業醫、新聞記者、實業家等なりき。

人事

訃音

●平田一若氏(明治三十五年卒業) は病氣にて去る六月一日午後十時半逝去せられたり謹て哀悼の意を表す。

轉居

東京世田ヶ谷騎兵第一聯隊醫務室 松村 魁(明三)
京都市上京區岡崎町疏水通公園前 岡村 俊照(明三)
横須賀海軍病院 小出 貞次郎(明元)
北海道虻田郡辨邊村小鉢岸 荻野 鶴次(明四)
京都市上京區大寶通下長者町下ル 糸川 角次郎(大元)
軍艦伊吹乘組 中西 興三次郎(大三)

會 告

●自大正四年五月廿一日校外特別會員會費納付調書
至全 六月廿五日

金額	期 限	氏 名
一金參圓也	自大正四年度 至大正六年度	川久保俊一殿
一金參圓也	全	大谷顯治殿
一金參圓也	全	大前俊次殿
一金參圓也	全	鈴木信友殿
一金參圓也	全	北村米三郎殿
一金參圓也	全	鈴木外男殿
一金參圓也	全	井上行義殿
一金參圓也	自大正三年度 至大正五年度	橋虎次郎殿
一金參圓也	自大正四年度 至大正六年度	入山義治殿
一金壹圓也	自大正四年度分	石橋四郎殿
一金參圓也	自大正三年度 至大正五年度	田尻秀雄殿
一金貳圓也	自大正四年度 至大正五年度	阿部慧治郎殿
一金參圓也	自大正四年度 至大正六年度	西 業 求殿

●創立二十五年記念館寄附金第拾壹回報告

(六月二十五日迄ノ分)○印ノモヽハ現金領收濟ノ分)

金額	氏 名	金額	氏 名
一金參圓也	小野澤庄桂殿	一金參圓也	谷澤一郎殿
一金六圓也	丹羽玄純殿	一金參圓也	宇佐美保久殿
計金拾五圓也			
累計金參千百〇參圓五拾錢也			
▲第拾回申込報告後現金領收ノ分			
一金五圓也	今村鉄夫殿	一金五圓也	大橋忠俊殿
一金拾圓也	中野玄次殿	一金五圓也	安田則人殿
一金五圓也	藤井溫真殿	一金參圓也	神田興敬殿
一金百圓也	山 碯 幹殿	一金貳拾圓也	宮田篤郎殿
一金貳拾圓也	加藤靜雄殿	一金五拾圓也	松原三郎殿
一金參拾圓也	藏光長次郎殿	一金拾五圓也	林 常 雄殿
一金貳圓也	押野芳孝殿	一金貳圓也	北川勝末殿
一金貳圓也	高橋直作殿	一金五圓也	石黒四郎殿
一金五圓也	川原武夫殿	一金五圓也	佐 口 榮殿
一金五圓也	那谷與一殿	一金五圓也	近藤時男殿
一金五圓也	小原隼三殿	一金五圓也	奥山義盛殿
一金五圓也	小池才一殿	一金五圓也	石川寛二殿
一金五圓也	富田豐咲殿	一金五圓也	山本兵三郎殿

以上

廣告

●佐々木教授在職紀念品贈呈醴金第二回報告

一金五圓也	×松原三郎殿	一金拾圓也	×林篤殿	一金壹圓也	×宇野正殿	一金壹圓也	×佐竹秀一殿
一金參圓也	×田村昌殿	一金拾圓也	×三木三郎殿	一金壹圓也	×三上儉治殿	一金壹圓也	×上原秀三殿
一金參圓也	×七五三龜吉殿	一金參圓也	×加瀬順之助殿	一金四圓也	×藤岡孫喜殿	一金參圓也	×深美貞之助殿
一金參圓也	×奥山義盛殿	一金壹圓也	×長廻善吉殿	一金壹圓也	×小島顯治殿	一金貳圓也	×中田秀貞殿
一金壹圓也	×山崎重治殿	一金壹圓也	×小池才一殿	一金參圓也	×堀田圭三殿	一金壹圓也	×平手秀敏殿
一金壹圓也	×淺井貞準殿	一金壹圓也	×諸橋善三郎殿	一金貳圓也	×周頌聲殿	一金貳圓也	×奧田秀的殿
一金壹圓也	×加藤慶三殿	一金壹圓也	×加勢基殿	一金壹圓也	×神戶政雄殿	一金貳圓也	×池田秀雄殿
一金壹圓也	×栗山光太郎殿	一金壹圓也	×沼田準三殿	一金貳圓也	×藤井真溫殿	一金壹圓也	×八田智証殿
一金壹圓也	×伊藤又吉殿	一金壹圓也	×富田豐咲殿	一金壹圓也	×辻一次殿	一金貳圓也	×河口賀真殿
一金壹圓也	×松木乙男殿	一金壹圓也	×織田他家男殿	一金壹圓也	×笹田順二殿	一金貳圓也	×根布貞吉殿
一金壹圓也	×小原隼三殿	一金壹圓也	×内藤頼一殿	一金參圓也	×矢吹清殿	一金壹圓也	×米村吉太郎殿
一金參圓也	×田中一次郎殿	一金壹圓也	×近藤時男殿	一金壹圓也	×中島儀一郎殿	一金壹圓也	×宮井男殿
一金壹圓也	×野坂賢藏殿	一金壹圓也	×水島時男殿	一金壹圓也	×額又太郎殿	一金壹圓也	×馬淵眞澄殿
一金貳圓也	×佐崎伊久殿	一金壹圓也	×太田尙男殿	一金壹圓也	×南部健一殿	一金壹圓也	×津川恒殿
一金壹圓也	×越村甚次郎殿	一金壹圓也	×石川寛二殿	一金貳圓也	×樋口平次殿	一金貳圓也	×松井清輝殿
一金壹圓也	×石川精一殿	一金壹圓也	×那谷與一殿	一金貳圓也	×鷹家福殿	一金壹圓也	×堀井吉平殿
一金壹圓也	×喜多禎次殿	一金五圓也	×梶川靜夫殿	一金壹圓也	×久保田保治殿	一金壹圓也	×武田正壽殿
一金參圓也	×近藤清吾殿	一金參圓也	×上野辰太郎殿	一金壹圓也	×藤田孫太郎殿	一金貳圓也	×渡邊仙岳殿
一金參圓也	×埴村和喜男殿	一金壹圓也	堂坂友作殿	一金壹圓也	×深澤治三郎殿	一金參圓也	×馬詰定衛殿
					×桑原益方殿	一金貳圓也	×高田信弘殿
					×馬場稠殿	一金壹圓也	×細田榮殿
					×清水亮殿	一金壹圓也	×鈴木忍殿
					×千田常外殿	一金貳圓也	×小野醇吉殿
					×大岸鹿子殿	一金壹圓也	×今村鉄夫殿
					×佐藤進殿	一金壹圓也	×神田定殿
							×吉田文平殿

一金壹圓也 ×吉田敬一殿 一金七圓也 醫科四年生徒總代
 以上五月二十七日ヨリ六月二十五日迄 (×ハ現金受取)
 現金金百四拾八圓也 ×澤井孝昌殿
 合計金百六拾九圓五拾錢也
 總計金四百參拾九圓也

▲第一回報告後現金受領ノ分

一金壹圓也	植木信親殿	一金參圓也	竹多乙三郎殿	一金壹圓也	小林良二殿	一金壹圓也	白木孝一殿
一金壹圓也	武内清作殿	一金壹圓也	阿波加憲吉殿	一金貳圓也	富田直殿	一金貳圓也	富田敦貴殿
一金壹圓也	田山退一殿	一金貳圓也	久津木勝作殿	一金壹圓也	眞澤貞一殿	一金壹圓也	河崎有作殿
一金壹圓也	楠野市太郎殿	一金壹圓也	平泉泰雄殿	一金壹圓也	庄司正義殿	一金貳圓也	轟茂殿
一金壹圓也	井上只次殿	一金貳圓也	塚本政次殿	一金五圓也	高田文齊殿	一金壹圓也	酒井政吉殿
一金壹圓也	後藤義賢殿	一金壹圓也	眞館修平殿	一金壹圓也	渡字貞殿	一金壹圓也	中島隆吉殿
一金貳圓也	太田精一殿	一金壹圓也	日野信次殿	一金壹圓也	長田八三郎殿	一金壹圓也	丹羽玄純殿
一金壹圓也	石譯太作殿	一金壹圓也	飯塚忠男殿	一金壹圓也	牛塚榮太郎殿	一金壹圓也	遠山繁殿
一金壹圓也	吉井康次郎殿	一金壹圓也	石橋四郎殿	一金壹圓也	清水秀夫殿	一金壹圓也	朝倉重敏殿
一金壹圓也	江守武殿	一金壹圓也	橋本監次郎殿	一金壹圓也	今井篤殿	一金壹圓也	野島利一殿
一金壹圓也	福田四郎殿	一金壹圓也	角田耕六殿	一金壹圓也	駒田作之助殿	一金貳圓也	石森國臣殿
一金壹圓也	戸谷慈一殿	一金壹圓也	山田幸治殿	一金壹圓也	松田龜太郎殿	一金壹圓也	小西俊三殿
一金壹圓也	岡田甚英殿	一金壹圓也	桑折直殿	一金壹圓也	林豐丈殿	一金壹圓也	中島誠殿
一金貳圓也	田代保二殿	一金壹圓也	小島佐藏殿	一金壹圓也	中川喜平殿	一金貳圓也	諸角友平殿
一金壹圓也	猪木彦助殿	一金壹圓也	原田正廣殿	一金壹圓也	新次郎吉殿	一金壹圓也	野村敏殿
一金壹圓也	重田繪殿	一金壹圓五拾錢也	内藤三太郎殿	一金貳圓也	宮城篤珍殿	一金壹圓也	竹松衛殿
一金壹圓也	天野長重殿	一金壹圓也	笹岡芳名殿	一金壹圓也	加藤鞆作殿	一金壹圓也	吉尾開道殿
一金壹圓也	並河正雄殿	一金壹圓也	黒田道純殿	一金壹圓也	田口泰殿	一金壹圓也	原伊三殿
一金壹圓也	田中信一殿	一金壹圓也	大口富治殿	一金壹圓也	鎌田勘之助殿	一金壹圓也	賀川見龍殿
一金壹圓也	中野才幸殿	一金壹圓也	和田政範殿	一金壹圓也	柳原茂樹殿	一金參圓也	影山清美殿
					山角彙安殿	一金壹圓也	鈴木於免吉殿
					林可一殿	一金壹圓也	中谷豐充殿
					島村伊之助殿	一金壹圓也	烏飼尹重殿
					森部令次殿	一金壹圓也	藤浪謙殿
					西東榮次郎殿	一金壹圓也	坪田義門殿
					中原德衛殿	一金壹圓也	木谷義太郎殿